

平成29年度

長岡京市立中学校米国短期交換留学事業

米国マサチューセッツ州  
アーリントン訪問報告書

長岡京市立中学校米国短期交換留学協議会

はじめに

学校教育課指導主事  
岩崎 裕美子

平成 29 年 4 月 26 日に出発して 5 月 6 日までの 11 日間、中学生 16 名、高校生 10 名、引率者 5 名の計 31 名で、アーリントンへの訪問に行ってきました。

雨降りの中での出発式でしたが、その後、お天気にも恵まれ、全行程を無事に終了することができました。whale watching では、これまでに見たこともない多くのクジラたちが快晴の海上をジャンプし、この取組の成功を称えているかのようでした。本事業をご支援いただきました関係者の皆様、そして温かく見守っていただきました保護者の皆様に、まずは心よりお礼申し上げます。

生徒たちは、英語 100 フレーズ暗唱や日記など、メンバーとともに約半年間もの英語学習を積み重ね、自信と期待を大きく膨らませ出発しました。そして、初めて触れる景色、食べ物、空気、言葉、習慣、人々の反応などなど・・・たくさんの刺激に、私たちの心は高揚し、これまでの常識や価値観を突き破るような衝撃がありました。と同時に、日本語が全く通じない環境の中、予想を超える不安感やストレス、とまどい、力なき自分自身にも出くわしたのでした。

そんな激動の 11 日間を、自分が培ってきた力と、仲間同士の支え合いで、自分らしく乗り越えた 26 名は、大きな達成感と共に、これまで気付かなかった新たな自分や目指したい自分を発見したのではないのでしょうか。市長報告会や市民報告会で、あふれるように思いを伝えた生徒たちは、それぞれがすばらしい自分色に輝いていました。

ここに綴られている生徒たちの感想文にも、その感動・感謝・成長・強い決意がたくさん詰まっています。

アーリントンでの最終日、フェアウェルパーティでみなさんが心を込めて歌った、指揮者付き「旅立ちの日に」の二部合唱は、アーリントンの人々に感動を与え、長岡京市との歴史あるつながりと、言葉を越えた心の通い合いをより一層深めた瞬間でした！

この思いを大切に、さらなる自分探しの旅に挑戦し続けてくれることを願っています。

今回の訪問を通して、アーリントンの方々には改めて感謝を申し上げます。

多くの方々との出会いや経験をきっかけに、訪問団員が、世界平和に向けて活躍することを期待するとともに、未来を担う子どもたちの夢や糧につながる本事業が、益々発展していきますことを祈念し、ご報告とさせていただきます。

本当にありがとうございました。



# 目 次

## はじめに

### I 訪問の部

- 1 訪問団員名簿 . . . . . 1
- 2 訪問日程 . . . . . 2
- 3 生徒感想文 . . . . . 3
- 4 アーリントンだより . . . . . 2 4

### II 来訪の部

- 1 訪日団員名簿 . . . . . 4 3
- 2 訪日日程 . . . . . 4 4
- 3 訪日団引率者挨拶 . . . . . 4 5
- 4 訪日団生徒挨拶 . . . . . 4 6
- 5 アーリントン訪日団友好紀行 . . . . . 4 7

# I 訪問の部

# 1 訪問団員名簿

## 中学生訪問団

役職・学年	氏名	備考
団長	岩崎 裕美子	長岡京市教育委員会 指導主事
引率	ボイル・コナー	英語指導助手
引率	小川 紀子	国際理解教育交流指導員
2年	楠 実夢	長岡中学校
3年	小森 一生	長岡中学校
3年	藤田 椋	長岡中学校
3年	大平 愛結	長岡中学校
3年	村岡 千鶴	長岡第二中学校
3年	岩谷 史哉	長岡第二中学校
3年	牧本 千鶴	長岡第二中学校
2年	島田 航希	長岡第三中学校
2年	藤原 未緒	長岡第三中学校
3年	田畑 千春	長岡第三中学校
3年	村上 結菜	長岡第三中学校
2年	依藤 慶太	長岡第四中学校
2年	石原 怜	長岡第四中学校
3年	近藤 里穂	長岡第四中学校
3年	森 桜子	長岡第四中学校
3年	森脇 真那	長岡第四中学校

## 高校生訪問団

役職・学年	氏名	備考
団長	西山 尚幸	西乙訓高校 英語科教諭
引率	大道 昭宏	西乙訓高校 英語科教諭
2年	阿部 愛実	西乙訓高校
2年	甲斐 歩野香	西乙訓高校
2年	竹下 優	西乙訓高校
2年	寺井 美樹	西乙訓高校
2年	長谷 萌実	西乙訓高校
2年	藤本 有咲	西乙訓高校
2年	大橋 凌介	西乙訓高校
2年	清水 達也	西乙訓高校
2年	曾根 康平	西乙訓高校
2年	渡邊 恵佑	西乙訓高校

## 2 訪問日程

月 日(曜日)	時刻	行程
4月26日(水)	11:45 12:30 14:40 16:00 18:10 18:00 20:00	長岡京市 発 伊丹空港 着 伊丹空港 発 成田空港 着 成田空港 発 ボストンローガン空港着 各自ホストファミリー宅へ
4月27日(木)	10:30	ボストン一日観光でフェンウェイパークツアー、州議事堂を見学
4月28日(金)	8:00 12:30 18:00	ダリン小学校で全校集会に出席 ハーバード大学ツアー オトソン中学にて「美女と野獣」劇鑑賞
4月29日(土)		ホストファミリーデー
4月30日(日)	12:30	ボストンコモンでジャパンフェスティバルに参加。
5月1日(月)	7:45 19:50	オトソン中学校で交流プログラムに参加 タウンミーティングに参加
5月2日(火)	9:45	オトソン中学校で交流プログラムに参加 ウィルソンファーム見学 レキシントン見学ツアーに参加
5月3日(水)	7:45 17:00	アーリントン高校で授業体験 レッドソックスの試合観戦
5月4日(木)	10:00 13:00	クジラ観測船に乗船 クインシーマーケットで買い物
5月5日(金)	10:00 13:30	アーリントン高校出発 ボストンローガン空港 発
5月6日(土)～	16:00 18:25 19:50 21:00	成田空港 着 入国手続 成田空港 発 伊丹空港 着 長岡京市役所 着

### 3 生徒感想文

長岡中学校 2年 楠 実夢

私がアーリントンに行って特に感じたことは3つあります。

1つ目は、英語は文法が正しくなくても一生懸命伝えようとするれば伝わるといことです。私は英語があまり得意ではなく、最初はホストファミリーが話しかけてくれてもなんて返せばいいのかわかりませんでした。しかし、しばらく経つと単語やジェスチャーで頑張って伝えようとするれば分かってもらえることに気づき、理解しようと聞いてくれるホストファミリーや、その場で出会った人達の優しさがとても嬉しかったです。

2つ目は、初対面でも気軽に笑顔で話しかけてくれるところです。これは、日本とアメリカの大きな違いだと思います。道端ですれ違った人でも声をかけてくれて、ちょっとした「Hello」の一言でも話しかけてもらえると気持ちがいいな一と感じました。学校で出会った子達はとてもフレンドリーで、私が理解できるように簡単な英語で話しかけてくれて、楽しく会話することができました。

3つ目は、学校の違いです。アメリカの学校は日本に比べて自由だと感じました。授業中に立ち歩いたり、お菓子を食べたりしている子がたくさんいて驚きました。授業は、日本のように先生の話をも黙々と聞いて黒板を写すようなものとは違い、グループでの話し合いや交流が多く、生徒が中心となって授業が進められているように感じました。また、校舎がレンガで造られていたり、壁に絵が書かれていたりなどカラフルで、同じ学校でも日本とアメリカでは全然違うなと思いました。アメリカの生徒達は休み時間だけでなく、授業も笑顔が絶えず楽しんでいるようにみえて、私も見習いたいと思いました。

このようなこと以外にも、アメリカに行ったことによってたくさんの驚きや発見があり、そこから多くのことを学ぶことができました。今回のアーリントンプログラムがとても意味のあるものにできたのも、たくさんの人達の支えがあってこそだと思うので、本当に感謝したいです。アーリントンプログラムで学んだことは、今後の生活に役立つことがたくさんあるため、どんどん活かしていき、友達や家族の人にも伝えていきたいと思ひます。

長岡中学校 3年 小森 一生

ぼくがアーリントンから帰ってきて、最初に思っことは、「もう一度行きたいな」です。正直、ぼくはアーリントンメンバーの中で一番乗り気ではなかったと思ひます。自分の好きなサッカーと予定が重なり、どちらかを諦めないといけなような状況が続いていたからです。自分が想像していたよりも、色々なことを犠牲にしてやらないといけなかつたからです。だからみんなよりは乗り気ではなかったと思ひます。

でも行ってみたら、とても楽しかつたです。自分の中ではあまりイメージがでなかつたですが、思っただよりもはるかに楽しかつたです。特に印象に残っていることは、小学校、中学校、高校に行っことは。理由は、みんながとても明るく接してくれて、発表をしたときも、とても盛り上げてくれて、とてもうれしかつたからです。もし、日本に来て、そんな盛り上げられないと思ひるので、とてもすごいと思ひました。さらに、アメリカ人のように陽気な人になりたいと思ひました。

ぼくは一番心配だったのはホームステイです。文化も違うし、食事も違うのでとても心配でした。

でもそんな心配などいらなくらい、ホストファミリーが優しくしてくれて、むしろ、ホストファミリーという時間がとても楽しかったです。

ぼくがアーリントンを通して学んだことは2つあります。

1つは人の良さです。ちょっとぶつかったらソーリー、イツオーケーなどお互い気が悪くならない対応です。そこを見習いたいと思いました。

2つ目は、言葉です。しっかり言いたいことが伝わらないということです。なので、しっかり英語力をつけたいと思いました。

今回のアーリントン訪問は自分にとってとても貴重な経験になりました。

長岡中学校 3年 藤田 椋

僕は15歳でアメリカ本土に上陸した。空港につくと、英語の生活の10日間が始まった。僕はアメリカ人の人間性と環境がいいなと思った。オトソン中学校のカフェテリアで前の席に座っていた男の子に声をかけられた。周りにいるのはアメリカ人ばかりで、どうしたらいいかわからないときに話しかけてくれたからとてもうれしかった。会ってすぐに日本から来た僕に話してくれる人はいい人だなと思った。他にも、小学校の子ども達が手を振ってくれたり、高校の男の子がハイタッチしてくれた。向こうの人は人見知りも一人もおらず、皆がフレンドリーだった。さらに、ホストファミリーが僕と会う度に挨拶してくれた。だから話す時間が少なくても距離が簡単に縮まった。アメリカと日本との環境の違いに何度も驚かされた。

家には庭があり、車を気にせずいつでも遊べる。家が広いから友達の家を全員連れてきても狭く感じなかった。グラウンドはほとんど芝生で学校とは違う場所にフィールドがたくさんあった。道路には七面鳥、庭にはリスやウサギがいた。このように自然と野生がたくさんあり、日本もこのようになったらいいなと思った。

僕はこのプログラムで、アメリカ人の優しさ、自然や野生の多さ、さらに実際の生活や、現地の英語の速さ、姉妹都市についても知ることができた。このような貴重な経験を忘れないようにし、姉妹都市としての誇りと自覚を持ち、さらに長岡京市を知ろうと思った。そして、様々な人が関わってプログラムが成功したと思うので感謝の気持ちを忘れないようにしようと思った。

長岡中学校 3年 大平 愛結

今回、アーリントン訪問に参加させていただいたことは、本当に素晴らしい経験だったと思っています。私は、この訪問に参加するにあたって、「自分の英語力を試したい」「異国の文化を自分の目で見たい」「外国人の友達を作りたい」の3つ程度のことしか考えていなかった上、本当にたったの10日間で何か変わるのかとさえ思っていました。しかし、この訪問は私が考えていたことはもちろん、他にも想像できなかった

たたくさんの事を叶えてくれました。

まず、ホストファミリーとあってすぐに、自分の英語力なんて本当にまだまだだということに気付かされました。英語は少し得意なので、なんとかかなと思っていましたが、一切通用しませんでした。

次に、日本との違いをととても感じられました。本当に沢山あったのですが、特に驚かされたのは、日本人との性格の違いです。

前に、「友達を作りたい。」と言いましたが、アメリカでは、「皆友達！」と言っても過言ではないと思います。初対面でも、近くにいる人には声をかけて、前から友達だったかのように振舞っていました。日本なら、馴れ馴れしい等と言われるでしょうが、アメリカでは普通であることに本当に驚きました。

さらに、こういったアメリカの良さを知ると同時に、日本の良さに気付くことも出来ました。日本では当たり前前のが、アメリカでは違いました。例えば、日本の道路は基本的に綺麗ですが、アメリカではどこでもゴミが落ちていました。また、中学校では、朝食を学校で食べる上に、昼食も学校で買っている人が多いです。日本では、家で朝食を食べて、昼食は家族の人が作ったお弁当、ということが当たり前になっていますが、アメリカではそれもないということに驚いたし、これからは当たり前と思っはいけないなと思いました。また、食文化も、「伝統料理」というものがあまりなかったり、食事の前後の「頂きます。」「ご馳走様でした」がないことに気付き、日本は食の伝統を大切にしているんだと思いました。

他にも、沢山の事に気付くことができ、なかなかできない楽しい経験もさせていただき、本当に充実した時間を過ごすことができました。そして、その経験を、「楽しかった」「色々な事を学べた」に留まらず、今回の経験からさらに学んだり、考えを深めたり、生活に活かしたりと、どんどん広げていきたいです。また、今回の訪問で感じた、留学したい、英語をもっと話せるようになりたい、次にホストファミリーと会う時は、もっと会話をしたい、という夢に向かって、ここをスタートにさらに努力したいです。

長岡中学校 3年 村岡千鶴

私のアメリカ人のイメージといえば、とても陽気でフレンドリーでした。今回アメリカに行ってみて実際にそうなんだと分かりました。例えば、空港などでぶつかったりすると必ず「Sorry」と言ってくれるし、小・中・高の学校に行くとき「好きな歌手は」と聞いてくれたり、アメリカで流行っているものを教えてくれたりしました。あと、目が合うとほほえんでくれたりします。私がホストファミリーとボストンに行ってお昼ご飯を食べていると、横のテーブルに強面の男性が座りました。私は目が合った瞬間「やばい、にらまれる」と思ったのですが、にこっと微笑んでくれてびっくりしました。もちろん私も笑顔で返しました。その後、私のホストファミリーが道をきいても丁寧に教えてくれました。アメリカの人はとっても優しくかったです。自分もし日本で誰かにぶつかってしまったなら、「ごめんなさい」と相手に届くように言いたいです。優しさでアメリカの方に負けなないようにします。

しかし、向こうの方にも恥ずかしがりやの子やおとなしい子もいました。私のホストファミリーの同い年の女の子はとっても恥ずかしがりやでした。でも、部活のことを話してくれたり、特技のビデオカメラやサッカーを披露してくれてとても嬉しかったです。当たり前ですが、性格は日本人もアメリカ人も人それぞれなんだなと感じました。

私は今回このプログラムでアメリカに行くまでは、アメリカの方はみんながみんなとっても明るくてフレンドリーだと思い込んでいました。でも、実際に行ってみると落ちついた雰囲気の人もいたり、引っこみ思案な子もたくさんおられました。日本にも利発な人もいれば、おとなしい子もいて、よく考えたら、いろいろな人がいることは当たり前なのに、私はアメリカの方はこうだ、と思い込んでいて、その人の内面が見えてなかったし、見ようとしていなかったのだと分かりました。なのでこれからは外国の方と接する時には、固定概念だけで話さないで、たくさん話題でたのしくお話しすることができるようにしたいです。

きっとこれは日本人同士でも大切なことだと思います。この接し方の方がその人の良い所、ステキなところを見つけられると思います。外国の方とたくさんお話ししようと思うと英語を話せることが絶対条件だと思います。今回は私の英語力のなさのせいで話したいけど話せなかったことがあったから、この体験をバネにまずは勉強を頑張ります。

長岡第二中学校 3年 岩谷 史哉

僕はこのアーリントン短期交換留学を通して、驚いた事や嬉しかった事、時には困った事など普段できない体験をすることができました。僕はその中のいくつかを紹介します。

まず、ホームステイ先へ向かう時、僕は日本とアメリカの建物や道路の違いがとても印象に残りました。アメリカの建物は木造やコンクリート造りのものだけでなく、レンガで造られたものなど、日本ではあまり目にしない、珍しい造りのものが多くありました。また、車が右側を走っているし、信号機の向きの違いもあって、見るものが新鮮なものばかりでした。

ダリン小学校やオトソン中学校では、服装の違いに一番驚きました。中学校や小学校に制服が無いということは知っていたけど、学校内にはネックレスをしていたり、装飾の付いたカチューシャをしていたりと個性的な人がたくさんいました。生徒たちはとても友好的で気軽に話しかけてくれたり、分からないところを丁寧に教えてくれたりと、そこでアメリカの生徒達の優しさやあたたかさを一番感じる事ができたと思います。僕は中学校で歴史や数学の授業を受けました。歴史では中国の歴史を、数学では関数の応用をしました。それらの授業は、日本で受けている授業よりも難しくとても面白かったです。

一番楽しかったことはホストファミリーデーです。僕はホストファミリーと海へ行ってロブスターを食べました。ロブスターを食べるのは初めてだったのでとても嬉しかったです。他にも海岸を一緒に歩いて写真を撮ったり、絵画を売っているお店で店員と話したり楽しい体験をたくさんしました。その日ホストファミリーと過ごしていて、「ありがとう」や「お大事に」の多さに気づきました。取り皿を渡したり、道を空けたりと当たり前的事をするだけで感謝されたり、くしゃみをした時に気遣ってくれたり、日本ではあまり言われない事を当たり前のように言っていてとても素敵なお事だと思いました。他にも気づいたことがあって、それは「どちらでもいい」と答えてしまうのはあまり良くないということです。相手からするとどちらでもいいと言われるよりも「はい」や「いいえ」とか、「〇〇がいい」と言われたほうがよくて、「どちらでもいい」と言ってしまうと逆に困ってしまうようです。あまり選ぶのが得意ではない僕は戸惑ったり、悩むときもありました。でも、選択を相手に任せる事なく、自分の意志をしっかりと伝える事ができたと思います。

この短期留学で自分のことやアメリカのことにたくさん気づけたと思います。また、英語の聴く力、話す

力もついたと思います。これらの経験は自分の将来にきっと役に立つと思います。僕はこれらの経験を忘れないように更に英語力を伸ばして、外国との交流に積極的に関わっていきたいと思います。今度、アメリカや外国へ行く機会があれば誰の力も借りず、一人で行ってみたいです。

長岡第二中学校 3年 牧本 千鶴

私の中学校生活の最大の目標が、アーリントンに行って英語を深く学ぶ事でした。一年生の時にも面接を受けたけれど落ちてしまい、ワンランク上の自分になってから再挑戦しようと思い、英検準二級を取得し、毎晩、発音のトレーニングを半年間やり続け、二年生では自信を持って面接に臨む事ができました。その結果、合格した時にはとても嬉しかったです。その上、プログラムの中学生リーダーの一人にも抜擢され、私なんかがリーダーの器ではないと思ったけれど、選ばれたからには代表の一人として恥ずかしくないように頑張ろうと思いました。ダリン小学校でのスピーチでは、少し緊張したけれど最後までやりきる事ができました。終わった時の拍手がとても暖かかったです。アメリカの子供達は、一生懸命何かをしている人を笑わないんだな、と思いました。

また、ホストファミリーにもとても暖かく接して頂いて、ホストファミリーデーはホストシスターとアートカレッジへ行って中高生向けのクラスに参加して絵を描いたり、家族がとても大切に思っている教会へ連れて行って貰ったり、食べたことのないものを食べさせて貰ったりと、とても楽しい一日になりました。普段の生活でも、遠慮がちになってしまっていた私を、ゲームに誘ってくれたり、日本のアニメを英語字幕で観せてくれたり、たくさん話を聞かせてくれたりして、馴染めるようにしてくれました。普段から涙脆い私は、フェアウェルパーティでも、最終日のバス乗車前にも大号泣してしまったのですが、そんな私を、ホストファミリーは「あなたの第二の家だよ、また帰っておいで」と暖かく送り出してくれました。

私は、アメリカにいる間に、いく先々でたくさんの道路標識やピクトグラムを目にし、それらにとっても興味を持ったので、たくさんの写真を撮りました。意味のわからない物もあったけれど、同じ標識でも、少しずつ違うデザインの工夫が施されていて、ステッカーが貼ってある物もあって、自由な国民性が現れているな、と思いました。特に、トイレの清掃中の看板は大抵どの施設にもあって、それぞれが、白抜きだったり、描いてある文字が少し違ったりと、大変面白いものでした。

私はこのプログラムで、アーリントンの人々の優しさに触れることが出来ました。私が暖かく接して頂いたように、受け入れる側になった際にも、同じように暖かく接したいです。

また、事前に様々なトレーニングを重ねたお陰で、現地では、コミュニケーション上のストレスはなく、自分の伝えたいことを伝えられ、相手の言っている事も大方理解する事ができました。このプログラムを自分が学んだことの実践の場として捉え、自分の英語力を確かめる、大変有意義な体験にする事ができたと思います。

アーリントンでの思い出を胸に、これからもホストファミリーと連絡を続け、英語の勉強も続けていきたいと思っています。そして、いつかホストファミリーをもう一度尋ねられたらと思っています。

長岡第三中学校 3年 島田 航希

僕はアーリントンに行って印象に残ったことがあります。それは、見知らぬ人に対してとてもフレンドリーに接しているということです。アーリントンについて最初に行ったホストファミリーとの顔合わせの時に、他の人のホストファミリーが僕に挨拶をしてくれました。日本にいればそんなことはないと思うので、僕は少し戸惑ってしまいました。

次に中学校を訪問したときに、シャドーイングをされていて教室をまわっていると、すれ違う生徒たちがみんな声をかけてくれたり、自己紹介をしてくれたりしました。食堂に行ったときも、周りに座っている人と会話したり、少し離れた所に座っている人が、近くに座るように僕に言ってくれたりもしました。中学校だけではなく、小学校や高校へ行ったときも、みんなとてもフレンドリーでした。

そして、僕がくしゃみをしたときに、ホストファミリーに限らず、ほとんど誰でもが僕にお大事にと言ってくれます。日本では知らない人がくしゃみをして何も言わないし、あまり気にしないと思います。そこにアメリカ人の優しさがよく表れているなと思いました。

次に印象的だったことは、アメリカ人の性格が日本人と違ったことです。日本人は集合時間などの時間にとっても気をつけていると思います。しかし、アメリカの人たちは、予定した時間ギリギリや、10分くらい遅れてしまっても、あまり気にしていないようでした。

そして、アメリカの人は、日本人とは違って、部屋の清潔さはあまり気にしていませんでした。家の中には土足で入っても良かったし、僕がホームステイをしている間に、部屋などの掃除をしているところをあまり見なかったからです。

このように、アメリカと日本にはそれぞれの良さがあるということが今回の訪問で分かりました。そして、日本人にもアメリカの人たちのような明るさやコミュニケーション力を身に着けた方がいいと思いました。もっと外国に行って自分の視野を広げようと思いました。

長岡第三中学校 2年 藤原 未緒

小学校の頃、学校に海外の学生のみなさんが来たことがありました。今思うと、私とその立場になったことにおどろいています。それに、私が試験に受かった通知が来たときは入れ間違いと思う程におどろきながらも、笑顔になったことは今も具体的に話せる程心に残っています。

半年行われた市役所での学習会。私は焦りと不安でいっぱいでした。私の学年は訪問団員で一番下で、同級生は4人。英語力はボロボロです。学習会で日本語の使用は一切禁止。心の中で悲鳴をあげました…。しかし、学習会はとても楽しい時間になりました。私はそれを上級生のおかげだと思っています。わからない時に教えてくれたり、話しかけてくれたりと、頼もしい人ばかりでした。

私はアーリントンに行くまでにたくさんのことを学びました。まず、たくさんの人たちに支えられて行われていることが分かりました。家族や市役所の方々、そしてホストファミリー。とても優しく迎え入れてくれて、思い出に残る日々を作ってくれました。私は朝起きるのが苦手だったので毎朝起こしてもらったり、アメリカンフードを作ってくれました。オレオをホストシスターが分けてくれたり、皆でUNOをして遊んだり。楽しさで

溢れた日でいっぱいでした！そんなアメリカで印象に残っているのは、皆がフレンドリーだったことです。すれ違うと、「Hi」や「Hello」などの声がたくさん飛び交っていたことと、知らない人同士でも声をかけ、今まで知り合いだったかのように話す人を見たことです。それを見て、アメリカ人は一期一会を大事にしている、日常をおもいきり楽しみ、笑顔で過ごしていると感じ、とても羨ましく思ったし、尊敬しました。

私はこの訪問を通し、感謝を言葉で表すこと、人に心を開くこと、日常をおもいきり楽しむことの大切さを学びました。言葉に表すことで相手に気持ちがちゃんと伝わることを改めて感じられました。心を開くことで、コミュニケーションがとれ、新しい出会いがあること、ささいなことも、おもいきり楽しんでいたらうれしさや楽しさも倍増して笑顔が増えること。本当にありがとうございました。

長岡第三中学校 3年 田畑千春

私は自分の目で世界というものを見てみたい、英語を使って沢山のひとと会話をしているいろいろな考え方や感じ方を知りたいという理由からアーリントン訪問に応募しました。

実際行ってみると、想像を超えるアメリカの人達の私たちに對する優しさやフレンドリーさに驚かされました。

アメリカには本当に多くの国籍の人達がいる、それが普通で当たり前の事みたいで、実際アーリントン高校で朝食を出してもらった時に私達のテーブルに来てくれた高校生4人の内3人はアメリカ以外の血が入っていて、そのことにとっても驚かされたし、異国の人たちの事をごく自然に受け入れていることに対してとても素敵だなと思いました。

アーリントン訪問で最も印象に残っているのはホストファミリーとの時間です。ホストファミリーに初めて会う時はさすがにちゃんと会話できるかな、どんな人達かなと緊張しましたが、ホストファミリーの明るさや気さくさのおかげで、すぐに緊張が解けました。ホストファミリーには、一緒にバスケットボールやバドミントンをしたり、従兄弟のスペンサーに会ったり、ホストファザーの誕生日を祝ったり、沢山のアメリカンフードに挑戦したり、湖に行ったり、ホストブラザーが出演していた美女と野獣の劇を見たり、ショッピングモールに連れて行ってもらったり、ボストンの夜景を見に連れていってもらったり、本当に数えきれない程の思い出を作ってもらいました。

アーリントンやボストンの事、よく使う英語のフレーズなど沢山の事を私に教えてくれて、また日本の事や長岡京市の事、私についての事など沢山の事を私に聞いてくれました。そうしていつの間にか私はホストファミリーとの時間が好きになっていました。日が経つにつれ、ホストファミリーとのお別れが近づき、とても悲しかったけど、それとともに感謝の気持ちがとても強くなってきて、この感謝の気持ちをちゃんとホストファミリーに伝えたくて最終日に手紙を渡すことにしました。驚くことに、ホストファミリー一人一人からも、私に宛てた手紙がありました。手紙には沢山の事が書いてあって本当に嬉しかったです。

お別れする時に、日本に帰ったら週に1回あったアーリントンレッスンもなくなり、英語を使う機会がとても減ってしまうから悲しい、もっと英語を使って沢山会話がしたいと伝えると、離れていてもメールがあるから連絡を取り合おうと言ってくれて、実際今も途切れることなくやり取りを続けてくれています。そのことがとても嬉しいし、本当にホストファミリーに出会えたことが幸せです。

このアーリントン訪問で沢山の事を学ぶことができ、成長することができたと思います。

こんな大きな経験が出来たのは、沢山の方々の支えがあったからだと思います。本当にありがとうございました。

長岡第三中学校 3年 村上 結菜

アーリントンで過ごした10日間は私の人生の中で忘れることのできない一生の思い出となり、たくさんのことを学び感じる事ができました。私がアーリントン留学をして一番感じていることは、自分の考え方が広がったことです。今までは、人の目を気にしてしまうという短所があったのですが、留学をして外国の人たちに出会った時、人の目を一切気にせずに、自分の考えややりたいことを何でもする姿を見て、自分もこのような人になりたいなあ、自分は少しのことで考えすぎだなあと思いました。また、外国人は本当にフレンドリーでした。私が横を通るだけで、沢山の人から挨拶や「名前は何？」などとしゃべりかけてくれました。日本では考えられないほど積極的な人達ばかりで、びっくりしました。次に一番楽しかったことはホストファミリーとの時間と皆でバスに乗っている時間です。森と動物が大好きなホストマザー、料理が上手で素敵なおもしろいホストファザー、そしておねえちゃんのような存在でしっかり者のエレノアに本当に出会えて幸せです。毎晩のようにトランプやゲームをしました。「ネコが好き」という接点があり、沢山の話をしました。私が分からない英語は一つ一つ辞書を使って教えてくれました。観光から家に帰ると、「どんな一日だった？」などと、たくさんのことを聞いてくれて、家族のように思ってくれました。皆でバスに乗っている間では昨日のあったことやびっくりした事など、情報交換したり、大声で歌ったり、写真を撮ったりしました。この13期のメンバーと初めて会った時は仲良くできるか心配でしたが、一人一人個性豊かで、面白くて早く仲良くなりたいと思うようになりました。勉強会では英語が苦手な私にわからないことを教えてくれて、助けてくれました。鳴子と歌の練習が始まるとより楽しくなりました。実際現地では練習の時よりさらに良いものが発表できたと思います。

一回一回発表していくうちに私達の絆もより深くなっていきました。日本に帰る前日の夜にあったフェアウェルパーティでは心から涙が溢れてきました。それはたった10日間という短い間を共に過ごしてきたホストファミリーや13期のメンバーとの別れが本当につらいという気持ちからでした。最後にこの留学は私を大きく成長させてくれ、大きく変えてくれました。そして沢山の人に出会いました。半年前から少しずつになった13期の仲間、たくさんを教えてくださいました先生、快く挑戦させてくれた家族、本当にありがとうございました。本当に私の人生を大きくかえてくれる素晴らしい留学でした。

長岡第四中学校 2年 依藤 慶太

僕はアーリントンに行く前、共に行くメンバーを見た時、とても驚きました。なぜなら、同級生が少なく、上級生ばかりだったからです。最初はとても不安でした。しかし、同級生や上級生としゃべることによって不安はなくなりました。また、アメリカに行った時にする出し物の練習もしました。鳴子を踊ったり、英語と日本語の歌を練習したりと、たくさんをしました。

アメリカに行ってから日本との違いにたくさん気付きました。たとえば土地、建物、人が日本に比べて

大きいということや、YESやNOがはっきりしているということです。日本人は少しばかりはっきりしないところがあるので、これはアメリカの良いところだと思います。また、学校ではタブレットを使った授業をしたり、授業中の発言が止まらないということも発見しました。これもまた、アメリカの良い所なので日本の見習うべき点だなと思いました。しかし、日本の良い所も気付くことができました。日本では、「いただきます。」「ごちそうさま。」を言います。しかしアメリカでは言いません。これは礼儀作法であり日本のとても良い所だと思います。また、アメリカ人は集合時間丁度に家を出ることが多く、毎日遅刻していました。なので、アメリカ人は時間にルーズなんだと思いました。しかし、日本人は時間には厳しいので、これも日本の良い点だと思います。僕はホストファミリーと話していてYESやNOばかりになってしまい、あまり会話が繋がらず、頑張って単語だけで話しても全然伝わりませんでした。だから、そこはとても悔しかったです。

アメリカでは僕は積極的に話しかけることと、どんなことにでも興味関心を持つことの大切さを学びました。日本に帰ってきてからは、知っている単語、文法表現を増やして、会話がつながるようにしていきたいです。そして、今では英会話を中心とした塾に行ったり、英検の資格を取ろうとしています。今回、行けたのは自分がチャレンジしたからだと思うし、多くの先生や市役所の方、家族、そしてコナー先生たちの協力のおかげだと思います。アメリカに行った経験は本当に良かったと思います。もし、僕たちのようにチャレンジする人がいるならば、アドバイスをしたいと思います。それは、もし分からない言葉が出てきても止まらずに笑顔で心がけたり、ジェスチャーをし続けることです。これは、アメリカに行って、自分の中では最も大切なものになったので、これを意識すると良いと思います。最後に、僕は一番下級生で、足を引っ張ってばかりいたけれど、上級生が引っ張ってってくれました。本当に頼もしかったです。そして、教えてくれた先生方にも本当に感謝しています。ありがとうございました。

長岡第四中学校 3年 石原 怜

私達アーリントンメンバー総勢26人は2017年4月にアメリカのアーリントンに行きました。私自身は外国に行くことだけでなく飛行機に乗ることさえも初めてで、期待と不安で胸がいっぱいでした。

アメリカは日本と比べると何もかもが新しいことばかりで、今までの人生の中で一番充実した10日間を過ごすことができました。建物、食べ物なども全然違って、あたかも映画の中の世界にいるかのようでした。まず一番の違いは言語の違いでした。ホストファミリーと話している時など、勉強不足で理解できないことも多々ありました。でも、アメリカの人達はわかりやすい英語でゆっくり繰り返し言ってくれたので全然不自由なく会話することができました。

今回のアメリカ留学で一番印象に残っていることはアメリカの人達のフレンドリーな所で、日本にはないやさしさをもっていた所です。彼らは普通の町中でも目が合うと簡単な挨拶をしてくれて、そこで一つ驚いたことがありました。それは向こうの人は私達を見ると、「ニーハオ。」と言ってきたので、アメリカから見てアジア系の顔はみんな中国人だと思うのかあと、新しくおもしろい発見がありました。他にも楽しく話してくれる人がたくさんいて、暇な時間がほとんどありませんでした。それと、普通日本では「ありがとう」と言っても、いちいち「どういたしまして」と言いませんが、向こうの人は「Thank you」と言うと必ず、「You are welcome」と返してくれたり、こまめに「お腹空いた?」「寒くない?」などと聞いてきてくれたりしたので、そう

いう所からやさしさをすごく感じることができました。

私は今回、アメリカへの留学に行って、生まれて初めての体験がたくさんあって、絶対に忘れることのできない最高の思い出になりました。正直行く前は、言葉も通じないし、生活もわからないし、嫌なことがいっぱいあるんじゃないかと思っていただけ、嫌なことといったら、10日の中でフェアウェルパーティでのお別れの1回だけでした。日本で外国の人がカタコトの日本語を話しているのを見て悪く思わないのと同じで、私達が間違えた英語を使っても悪くは思われなと思うので、また外国の人と話す機会があれば、緊張せずに楽しく話せたらいいなと思います。アメリカに行って学んだことは将来にも役立つと思うのでしっかり自分が一歩踏み出すきっかけにしたいです。

長岡第四中学校 3年 近藤 里穂

私は、アーリントンに行けることが決まったときからずっとアーリントンでの10日間がとても楽しみでした。でも、少し不安もありました。それは、人種差別はあるのかな、私の英語は伝わるのかな…などでした。

実際に出発し、飛行機に乗っているときから、アメリカを感じました。それは、キャビンアテンダントさんがアメリカ人だったり、インフォメーションの声が英語だったからです。

あつという間に13時間が過ぎ、飛行機から出て思ったことは、アメリカはなんでもすてきやなということです。標識はもちろん英語で、アメリカ人はみんなフレンドリーだからです。「ハロー」と声をかけてくれたり、日本人にはないアメリカの良さを見つけられました。

ホストファミリーに会うまでのバスの中、私はドキドキしたり、不安だったり複雑な気持ちでいっぱいでした。私のホストファミリーはとても優しく、心配していた気持ちは一気に吹き飛びました。

私が一番心に残ったことは、高校に訪問した時のことです。高校で発表した鳴子や歌はこの訪問団で最後だと思うと泣きそうになりました。この訪問団みんなまで四回発表したことは、とても良い思い出になりました。その後、私は英語のクラスに入れてもらいました。一つのグループに一人ずつ混ぜてもらい、トークするという授業でした。私のグループの人たちは、私が英語を理解できなかったとき、違うわかりやすい単語に変えて説明してくれました。言葉の壁をこえて話が通じる楽しさを実感できました。

私はこの10日間で、アメリカの良さをたくさん学ぶことができました。それは、どんなことでも「ナイス！」や「グッド！」と返事をしてくれたり、知り合いではない人とも「ハロー」から始まる会話がはずんでいくことです。日本では、あいさつをしても無視されることがあるので、そういう良い面が日本にも広まると良いなと思いました。

今年の7月に来てくれるアーリントンの子に日本の文化を教えて、日本って良いなと思ってもらえるようにがんばりたいです。私のホストファミリーが家族が一人として優しく接してくれたように、私もそんな風に受け入れをしたいと思います。

この訪問で、私は国際交流の多い高校に行くという目標を見つけることができました。この目標に向かって、勉強もがんばりたいと思います。

長岡第四中学校 3年 森 桜子

私はアーリントン訪問を通して感じたことが2つあります。

まず1つ目は人との付き合い方についてです。アメリカはさまざまな人種、文化、宗教の人がいるからこそ、人のことを人という型にはめるんじゃなくて、その人の型を作っているなと思いました。家族も同じです。私はホストファザーとホストマザーの電話に驚きました。電話の最後に「I Love you.」「Me too.」と言っていました。日本じゃありえないし、そういうことを恥ずかしながら言えることを素敵だと思います。人だから、男だから、女だから、母親だから、父親だからというのはおかしいと思います。また、このような考え方は日本がこれから発展していく上で、取り入れなければならないことだと思います。反対に日本人の謙遜する心などはアメリカにとって取り入れるべきことだと思います。そうした日本の良さにも気づける良い訪問になりました。

2つ目は仲間と家族の大切さです。一緒に行ったメンバーが一番の心の支えになりました。一日目などまだまだなれてなくて、心配や不安でいっぱいだったけど、次の日にみんなに会ったらとても安心しました。私はホエールウォッチングで船酔いをしてしまっていた時に、みんなが通るたびに心配してくれてうれしかったです。また、フェアウェルパーティーで全員と写真を撮った時に泣いてる人がいたり、泣いてる自分を笑わせようとする人がいたりして、本当にこの26人で来れてよかったと思いました。

ホストファミリーは優しくゆっくり話しかけてくれて、毎日体調を気にかけてくれました。本当に自慢のホストファミリーです。そんなホストファミリーに囲まれて、10日間を過ごしたことで、自分の家族にも感謝の気持ちを伝えていきたいと思いました。

長岡第四中学校 3年 森脇 真那

今回のアーリントン訪問に参加させてもらって、大切なことを2つ学びました。

1つ目は、アメリカ人はどんな人に対しても優しいなと思いました。知らない人がせきをすると必ず誰かが「ブレスユー」(お大事に)と言ってくれます。その一言で心が温まりました。

2つ目は、何事も積極的にやらないといけないということです。アーリントンに行くまで、自分から行動することをしていなかったけど、アーリントンに行ってから自分から何かを伝えないと始まらない、という自覚ができました。なので、ホストファミリーデーは絵を書いたり、ジェスチャーをして伝えようするとホストシスターが理解してくれました。その瞬間、言語や国籍が違って通じ合えるんだと実感できました。

アーリントン訪問中、とても楽しかったのがジャパンフェスタとダリン小学校での見学です。ジャパンフェスタでは、鳴子を踊り、その最中で手裏剣を投げました。手裏剣をとった人がとても喜んでくれて、ダンス後にお話ししてきてくれる子もいました。また、友達の手裏剣と写真を撮ったり、遊んだりしてとても幸せでした。

ダリン小学校で私はけん玉を教えました。けん玉は危ないけど楽しいということを伝えることは難しかったけど、楽しんでくれたので良かったです。また、お昼ごはん中、隣の公園で小学生とたくさん写真を撮りました。その時、カメラを向けると色んな人が写ってくれました。そこで、アメリカのフレンドリーさを感じまし

た。

今回のアーリントン訪問で、異文化をたくさん体験することができました。そこで、人の優しさがとても分かり、言語や人種の壁は自分たちが作っているもので、努力をすればすぐに打ち解け合えるんだと分かりました。今回の貴重な体験をこれからの将来につなげていきたいし、共有したいと思います。

西乙訓高校2年 阿部 愛実

この留学で私は日本とアメリカの違いについてとても感じさせられました。そして私自身を変えてくれました。その私が気づいた違いについて、報告します。

まずは、私が感じたアメリカと日本の違いは、アメリカの人たちはとても母国を愛していました。日本の家には日本の国旗が飾られていることはありませんが、アメリカではほとんどの家に国旗が飾られていました。わたしはそれに気づいたとき、心の底から自分の国を愛しているのだと思いました。

もうひとつは、アメリカの人と日本人との性格の差です。現地の学校に行ったとき私はいろいろなことに驚きました。日本では手を挙げて発言することは少なく、先生が指名することがほとんどです。しかしアメリカの子たちはほとんどの生徒が手を挙げ自分の意見を主張していました。私はその光景を見たとき「発言をするのは個々の子たちは普通で何ともないのだと、自分も日本に帰って、先生に授業で当てられてもこの光景を見たから大丈夫だと思いました。実際に帰ってきてから先生に授業で当てられても、前まで「間違えたらどうしよう」と思っていたのが、間違えても大丈夫だと思うようになり、全く苦痛ではなくなりました。

また、アメリカの人は目があったら話しかけてくれ、いつも心が開いていて、フレンドリーだなと思いました。だから私はアメリカで過ごしている間は、心を開いて過ごすようにしました。すると、初対面で話しかけられてもいつも笑顔で話をすることが出来ました。日本に帰ってきてから友達に「前より明るくなったな。そのほうがいい」と言われました。

そんなアメリカ人のフレンドリーさを感じたことはまだあります。街中で歩いていて、体がぶつかった時、とても大きな声で申し訳なさそうに謝ってくれました。私は、日本でも彼らを見習って行動すべきだと思いました。

アメリカは、何についても感謝し、大切なことをきちんと伝えられる国です。私も見習っていろいろなことに感謝し、謝るべきときは謝り、自分の気持ちを伝えようと思いました。

ホームステイ先では、毎日、夕食時に政治の話題が持ち上がりました。私は政治については疎かったのですが、15歳のホストシスターは真剣な顔で会話に参加していました。日本の子供はそんなに政治の話とかもしないし、そもそも日常的に話題にするほど関心があるとは言えません。私も、尋ねられたら自分の意見を答えてはいましたが、日本の子供はもっと日本の政治に関心を持たないといけないと思いました。私ももっとニュースを見るように心掛けようと思いました。

この10日間で私は性格の面でも変わることが出来ました。授業であてられないか心配な気持ちを直すという目標も達成できました。この経験を胸にもっともっと自分自身を変えていきたいと思っています。

私が今回のアーリントン短期留学プログラムで私自身を含めていろいろな変化や発見がありました。私の価値観や考えを変えたもの、および日本とアメリカを比較し、そしてアメリカのほうが優れていると思った点が三つあります。

まず一つ目は、日本とアメリカの学校とその認識の違いです。私が通っている日本の学校は授業時間が50分、休憩が10分、昼休みは45分です。授業は、主に先生の説明や板書をノートにとっていく形式です。喋っていたり、席から離れたりすると先生に注意されます。

一方、私たちが訪問したアメリカの学校では授業時間は50分、間の休憩はなんと3分で、昼休みは20分だけです。彼らの授業の受け方はディスカッションをしたり、生徒同士で問題を解きあったりといった、あまり書く作業がなく、また先生が一方向的にしゃべる授業ではないなと思いました。それに、彼らは立ち歩いてもしゃべっていても先生は何も言いませんでした。

私なぜこんなにも学校での生徒の過ごし方に違いがあるのか疑問に思い、引率の先生に尋ねてみたところ、返事はこうでした。

「彼らの学校の認識は勉強する場所というものだから、間の休憩は移動や準備のための時間で、昼休みは昼食をとるための時間。だから、友達と話したりするのは放課後でもできる考えなのだろう。授業は、アメリカ人は思ったことは言う、言わなければ理解してもらえないという文化的な背景から来ているものだろう」

先生は、ここには書き切れないほどたくさん私に教えてくださいました。私はこれを聞いてアメリカの学校に憧れを抱きました。

二つ目は、地域の歴史に対する関心です。私はホストファミリーと自転車でレキシントンまでいきました。ホストマザーが独立戦争時にレキシントン付近で起きたことをしてくれました。グリーンフィールド付近を歩いて像や記念碑などがあるとそれらを一から教えてくださいました。私はこの地域で起こった大まかなことを知ったのと同時に、彼らは、否、おそらくアメリカに住んでいるほとんどの方が彼らの住んでいる地域の歴史について知っているのだらうと思いました。

三つ目は、私が一番感動し、いま日本の方々が見習うべきものだと思います。それは、政治に対する関心です。私が友人と土産物を見ているとき、私は「あ、トランプがあるやん。」と言いました。すると引率のコナー先生が「This is trump card. Not trump.」と言ってtrumpという言葉聞きたくないようにしていました。それと私は私のホストファミリーやほかのホストファミリーの方に二つ質問されました。

「Do you like Trump?[あなたはトランプが好きですか?]

「Do you like Prime Minister of your country?[あなたの国の総理が好きですか?]

私はこれらを質問されたとき、私の考えがちゃんと答えられなかったのと同時に恥ずかしいと思いました。なぜなら私の国ことなのにおそらく彼らより無知なことが多いと思ったからです。その上関心すらありませんでした。

今回のプログラムで僕の人生が変わったといっても過言ではないと思いました。学校では意欲を持って勉強し、地域の歴史や政治については他の方に説明できるぐらいの知識を身につけたいです。今回は本当にありがとうございます。

どうしよう。ホストファミリーと出会ったとき、正直私の頭の中はほとんどこの言葉で埋め尽くされ、不安でいっぱいでした。質問をされてもネイティブの話す英語の速さに驚き、言葉が詰まるほどでした。実際にホストファミリーへのお土産を説明しようと思ったとき、ある一つの単語が思い出せず少し黙り込んでしまいました。その時、違う見方をしてみようと思い、違う視点から伝えてみました。すると驚くことにすぐ、理解してもらえたのです。この経験から、一つのことにはいろいろな見方があり、伝え方がある。あきらめず最後まで、自分の言葉で伝えきることが大切なのだと感じました。

数日経過し、ホストファミリーと買い物に行く途中、歩行者の信号機の前で立ち止まると、そこには押しボタンがついていました。ホストシスターに言われ、試しに押してみると、「wait（お待ちください）」と音声が出たのです。日本にも音の出る信号機はあるものの、「お待ちください」と喋る信号機は見たことがなく、アメリカの信号機は、視覚的にも聴覚的にもわかりやすく、優しいなと感じました。

スーパーマーケットは、日本と違い、お客さんの前でもため息をつく店員さんがいたり、ほかの店員さんと話しながらレジを打つ人もいたり、アメリカの自由さを目の当たりにしました。その自由のおかげで店員さんはフレンドリーで、お客さんとの壁も低く接しやすいのだろーと思えました。私がお金を間違えずに出せると、「パーフェクト！」と言いながらお会計をしてくれたり、必ず「ハロー！」とあいさつをしてくれたり、実際にその壁の低さを体感できました。もちろん店員さんだけでなく、アメリカの人々は道を歩いてすれ違う人ほとんどに「ハロー！」や「ハーイ！」とあいさつをし合い、他人も友達・仲間というような感覚を初めて知ることができました。これらの光景を見て一つ、暗い顔をした人が見当たらないということに気が付きました。アーリントンという町、アメリカという国は、なんて明るい人たちが集まっているのだと感動しました。現地の人、一人ひとりそれぞれの人生を楽しんでいるような顔をしていて、私自身とても大きな影響を受けました。日本へ帰って暗い顔をしている人を見るのでさえ嫌になり、せめて私だけでも毎日笑顔でいようと思えるようになりました。

そしてもう一つ、日本のご飯をより大切に、味わって食べられるようにもなりました。アメリカでハンバーガーやピザなどを毎日のように食べていたことで、帰国後、日本食のあじの深みや技術の素晴らしさを再発見することができました。

この10日間では英語力の未熟さを感じました。これから英語力を確実なものにし、もう一度行く頃には今より必ず成長していきたいと思えます。そして、この留学で成長した部分を無駄にすることなく今後に生かしたいとおもいます。貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

期待と楽しみ、不安と緊張の入り混じったスタートでした。特に不安に感じていたのはホストファミリーのことでした。それは、自分は見ず知らずの家庭で10日間過ごすことができるのかという不安でした。ですが、自己紹介とお土産の紹介の会話をしているうちに、英語で会話をしている楽しさや彼らのやさしさに触れ、もっとこの人たちとしゃべりたいと思うようになっていました。

「Do you like it ?」これは、僕のホストファミリーが何度も僕に言ってくれた言葉です。例えば、何か飲み物を飲んだ時、お菓子を食べたときに、決まってこの言葉をかけてくれました。そのとき、僕も決まって「yes !」とこたえていましたが、その間からは彼らのものを気に入ってほしいという温かさを感じました。

朝、母に起こされていたり、ゲームが好きだったり、お菓子が好きだったり、向こうの子も日本の子も似たようなものなのだと感じました。実際、子供たちと遊んだときはいつものように楽しかったのです。言語などの文化の差を感じないほどに。

この期間中、僕が一番驚いたのは、中学校のシャドーイングで見た授業中の様子です。制服はなく、私服で、ヘッドホンや帽子を身に着けていたり、ガムを噛んでいたりと、さすが自由の国だと思いました。いざ授業が始まると驚きの連続でした。授業中は絶え間なく挙手があり、皆が先生のほうに目を向け、意欲をもって取り組んでいるようでした。また、グループ活動の時には、笑いも交えつつそれぞれが意見を交換し、お題について話し合っている様子が見られました。このメリハリや積極性は日本人が学ぶべき点だと思いました。

一番感動したのは、アーリントン高校でスピーチをした時です。僕が話し終えたとき、生徒が歓声とともに拍手をおくってくれました。そのとき僕は、考えてよかった、覚えたかいたがあったと、心から感じました。また、こんなに歓声を浴びる嬉しさは日本では味わえないものだと実感しました。

一番楽しかったのはホストファミリーとの時間でした。時にはゲームしようと誘ってくれたり、時にはアメリカの政治を教えてくれたりしました。その中で僕が聞き取れなかったことを何度も聞き返すのに対して、嫌な顔せずによく話してくれたり簡単な英語を使ってくれたり、とても優しく接してくれました。僕がこの短期留学を楽しめたのは本当にこの家族のおかげでした。いろいろな不安がありましたが、唯一いやに感じたのはお別れの時だったと思います。

この訪問を通じて、自分がいかに英語を使えないかを実感しました。いろいろな文法を習ったのにも関わらず、話せた内容は簡単なものばかりでした。もしまた会える機会があるのなら、そのときまでにもっと深くしゃべれるような力をつけたいです。

今回多くのことを学びましたが、一番普段の生活で生かせるのは「積極性」だと思います。いろいろなことに興味、疑問を持ち、自分の意見を発言できるような人間になりたいです。アーリントン短期留学の関係者の皆様、事前学習をしてくださった先生方、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

アメリカでは日本だけではできないことをたくさん経験しました。たった10日間だけでしたが、この10日間は間違いなく今までの16年間で最も刺激的でした。海外に行くのも13時間のフライトや、知らない人のお家に泊まらせてもらう事、英語だけの生活といった初めてのことだらけで出発前は不安しかなかったのですが、帰国した今は、これらの不安すべてがよい思い出です。

たくさんの人とも出会い、お世話になりました。まず訪問団員の皆には半年間の学習会からアメリカに行ってから本当に助けられてばかりでした。また指導者の方々にも本当にお世話になり感謝しかありません。

アメリカに行ってから、ホストファミリーの方々を始め、現地の学生たちともたくさん出会いがありました。たくさんの方の助けがあってこそこの経験だと思えるので行かせてくれた両親や携わって下さった方全員に本当に感謝しています。

アメリカに行き始めて気が付いたことがたくさんあります。まず、アメリカの人たちは明るくフレンドリーな人ばかりでした。これは行く前からわかっていたことでもありましたが身を持って感じました。アーリントンでは小学校、中学校、高校を訪問しましたがどこへ行ってもみんな手を振ってきてくれたり、Helloと声をかけてくれたりしました。また、お店に行けば店員さんがHow are you?と明るく話かけてきたり、短い会話をしたりして、最低限の事しか話さない日本のお店とは違うなと感じました。

それと、アメリカの食についてです。アメリカに行く前はアメリカの食事は偏食で不健康なものしかないと思っていました。ですが、実際に現地で生活してみると、野菜も果物もあり、僕のイメージとは違いました。実際日本に帰ってきて体重を量ってみても1kgも増えていませんでした。

また、アメリカでいくつか日本を見つけました。寿司屋さんをはじめとした日本料理店、日本の会社などありましたが、なんといっても走っている車のほとんどが日本の車でした。ホストファミリーの車も日本製で日本の車は良いと言われておられました。少し嬉しかったです。

もう一つは英語についてです。僕自身リスニングが得意ではないので、ネイティブの人が話す英語のほとんどを聞き取れませんでした。しかし自分の話す英語はある程度通じていました。ですが相手の話していることが聞き取れないのであまり会話になりませんでした。これが本当に悔しかったし、自分の拙い英語力に改めて気が付かされました。

想像以上に英語が難しく、頼れる人がいないホームステイは本当に大変でした。ホストファミリーは優しく親切でしたが、英語だけの生活が厳しかったので、2日目くらいまでは正直ステイ先に帰るのが怖かったです。ですが、ホストファミリーと生活をして、日を重ねていくうちに少しずつ聞き取れるようになり、だんだん会話を楽しむことができるようになりました。これは自分にとってとても自信になったし、できなかった事ができるようになる事の楽しさに気付いたので、今後の人生にも活かせると思います。

最後に、僕はアメリカでの最後の朝、お別れが悲しくて泣いてしまいました。あまり人前で泣くことがないタイプなのですが、ホストファミリーの方々には本当の家族のように接して下さり居心地のよい生活をさせてくれました。こんな風にアメリカは僕を大きく変えてくれました。

今夏にホストブラザーのRyanが日本に来るので僕たちは「日本で会おう」と約束しました。夏

までもっと英語の勉強をしてたくさん話せるようになって再会しようと思います。アーリントン訪問は貴重な経験ばかりでした、行かせて頂いて本当にありがとうございました。

西乙訓高校 2年 竹下 優

今回の短期留学で、私は初めて海外へ行きました。そのため、見るものすべてが初めてで新鮮でした。まず、アメリカに着いての率直な感想はとにかく、空が広いということでした。しかし、ただ空が広いだけでなく歩いていると街の匂いも違ったり、建物が高かったり、看板の色使いがカラフルで驚きました。

私は、食べものに困りました。なぜかという、はじめの一口目は美味しくても、後味に独特な風味が広がったりして、海外の味になかなか慣れることができず、そのため、はじめの 2, 3 日はあまりご飯が食べられずお菓子やフルーツを主に食べていたりしてすごく大変でした。

次に、私がホストファミリーデーに連れて行ってもらったことを紹介します。はじめに、ボストンで人気の海へ連れて行ってもらいました。日本の海だと孤立している感じがするけれど連れて行ってもらったところは、道路を車で走っていると、道路の両側に広くとても大きな海とオシャレなレストランが見え、その景色がずっと続いていました。駐車場はなく、みんな道路の端に停めていました。ちょうどその日は快晴で気温も高かったので、水が冷たくとても気持ち良かったです。海辺を歩きながら、お父さんからこの海について教えてもらったり、貝殻を探したりしました。昼食は、そのままレストランでフィッシュ&チップスを食べました。そのあとは、昔の街並みが残っている場所へ連れて行ってもらいました。

帰宅後、私は夕飯に日本食を作りました。いなり寿司とお味噌汁を作りました。すると、ホストファミリーと初めて会ったときにお土産として渡したお箸と茶碗を使ってくれました。お父さんとお母さんは、すごく上手にお箸を使っていたので、「お箸の持ち方とても上手ですね。」と言うと得意げにお寿司をつかんでくれました。ホストシスターの Luci と Delia は、苦戦していたので持ち方を教えてあげると練習していました。

夕食の後、お父さんが「僕は毎年、今日のようなホストファミリーデーと留学生が作ってくれる日本食をととても楽しみにしているんだ。おいしかったよ、ありがとう。」と言ってもらえたので美味しくできたか不安だったけれど喜んでもらえたのでよかったです。

次に、アメリカ人のここを見習いたいと思ったところはフレンドリーなところです。ふつうに街中を歩いても目が合うと笑ってくれたり、初めて会ってもすぐに話しかけてくれて、はじめましての挨拶をしたときはハグしたりと、日本では珍しいことばかりで、私も見習いたいと思いました。日本に帰ってきてくしゃみをしたときに「Bless you」と言ってもらえず、またお店に入ったときに「How do you feel today?」などと言ってもらえなくて少し寂しくなりました。なので、そういった気遣いを日本でもパッとできるように普段から心がけて生活していこうと思いました。

最後に全体を通して私が思ったのは、気遣いの大切さと、なにより自分の英語力の低さです。ホストファミリーや向こうで作れた友達と話をしても簡単な文や「Yes」や「No」などといった短い返しでしか話せなかったところがあって、自分は相手にこう伝えたいのに全然伝わらずこんな

話がしたいのにできないというのがすごくくやしかったです。なので、自分の夢のためにも頑張り夢をかなえることはもちろん、またホストファミリーと会ってたくさん話をしたいです。

西乙訓高校 2年 寺井 美樹

私がアーリントンで思ったことは、アメリカ人は誰に対してもやさしいということです。例えば、くしゃみをしたときホストファミリーが「ブレスユー」と言ってくれました。この10日間でいろんなところに行かせてもしたらってくしゃみを何回かしたとき必ず誰かは「ブレスユー」と言ってくれて本当にやさしいなと思いました。日本に帰ってきて、まず空港についてくしゃみをしても誰も「ブレスユー」と声をかけてもらえず少しさみしかったもの覚えています。

もう一つは、道を歩いているときに、知っている人はもちろん知らない人や町ですれ違った人でも「ハロー」と気さくに声をかけてくれたり調子はどう？など普通に話しかけてくれたのが、私はとてもうれしかったです。日本では全然見かけない光景、現実だったので少し驚きました。

もう一つ思ったことがあって、それは自分の住んでいる国、地域についてよく知っていることです。ホストファミリーが送り迎えをしてくれるとき、車の移動だったので通るところを教えてくれたり、行った先のことを教えてくれたり、私よりも年下のホストシスターにも今日いった場所を話すとその場所について教えてくれたりして本当によく知っていて驚きました。ホストファミリーに自分の国、地域について聞かれることがあったけど全然答えられなかったことが心残りなので、次にアメリカから来る人を受け入れたとき、いっぱい教えてあげたいと思いました。

私が初めてホストファミリーと会ったとき、ホストファミリーは私のことを強く抱き締めてくれたことを覚えています。その時、私はホームステイに対しての不安がなくなり楽しみに変わりました。10日間のホームステイで、初日は何を言っているのか何もわからなかったし、どう返したらいいのかもわからず「イエス」「ノー」の簡単な会話しかできなくて、このとき自分の英語力のなさを実感しました。

しかし、日が経つうちに相手が何を言っているかもわかるようになり、会話することの楽しさを学びました。初めからもっと話せていたらなと思いました。ホストファミリーと過ごした時間は毎日が新鮮で、1日1日がとても楽しく、英語がわからないときにはゆっくり話してくれたり、ジェスチャーで伝えてくれたり、わかりやすく伝えようとしてくれ、私ももっと聞き取りたいと思うようになりました。会話をするときには笑顔で聞いてくれたり、うなずいたり、会話をすることを楽しそうにしてくれてとても話しやすく、会話する楽しさを教えてくれました。

アメリカに行ったことで、伝えたいことは伝えられるようになり、意思表示をはっきりできるようになりました。そして現地の人とふれあい、本場の英語を聞けて、自分の英語力のなさがわかったので、次行く時にはもっと勉強してもっと話せるようにしたいです。そしてホストファミリーのところにいきたいです。夏にアーリントンから来る人たちに、アメリカで教えてもらった会話する楽しさを教えてあげたいと思っています。私がこの10日間が本当に楽しくて成長できたと思っていますのでアメリカから来た人にも最高だった、また来たいと思ってもらえるようなおもてなしをしたいと思っています。今回アメリカに行く機会があったので現地で学んだこと感じたことをこれから生かしたいです。

私は今回の短期留学で、長時間の空の旅をして、初めて会うホストファミリーと10日間を過ごし、異国の地で、日本語が通じるのは一緒に来た人たちのみ、言いたいことを言うのにも一苦労という生活を送りました。そんな生活の中で、たくさんの方の気遣いや思いやりに触れました。

私は最初、ホストファミリーとメールのやり取りができたのが出発の2日前ということもあり、最初にホストファミリーと会うとき、とても大きな不安を抱えていました。お互いにわずかな情報しか持っていない、話す言葉も習慣も違う、そのような相手と10日間を過ごすなんていうのは初めてのことで、はたしてうまくやっていけるだろうか。しかし、そんな不安でいっぱいなのに、ホストファミリーはニコリ笑って私を迎え入れてくれました。私はこのとき、なんて綺麗に笑うのだろうと思いました。その笑顔は今まで見てきた笑い方とは全然違う笑い方でした。何度もこの笑顔を見ることができましたが、その度に、全く違う笑い方をするのだなと思いました。

初日から最終日まで、私から話しかけられたことといえば、何か用件を伝える時のみで、何気ない会話をしたりするということがあまりできませんでした。相手が言っていることを理解するのに精一杯で、思っていることを英語にしてだすことができなかつたり、英語が合っているかどうか分からなくて話し出せなかつたりと、改めて、自分の消極的な部分と、英語能力のなさに気づきました。

今後、どうやって話していこうか考えていたときに、8歳のホストシスターが遊びに誘ってくれました。その彼女の優しさに、私はとても救われました。その彼女の優しさのおかげで、わたしは緊張をほぐすことができました。彼女だけではありません。送り迎えをしてくれたホストファザーやホストマザーも、車内で、今日はどうだった、この町は長岡京とは違う？などと話しかけてくださり、たくさん親切にしてもらいました。

一度、その親切に驚いたことがあります。家の中で映画を見ようとなったとき、その映画は私が見たことのないシリーズの物でした。そこで、14歳のホストシスターが丁寧に登場人物やシーンの説明をしてくれて、字幕もない英語だけの映画を理解することができました。驚いたのは説明しているときの彼女の表情でした。好きなシリーズだったからかもしれませんが、いやな顔一つもせずに、とても楽しそうに説明してくれました。自分の好きなものを話すときに、笑われたら嫌だな、と思う人はいると思います。しかし彼女はそんな心配を微塵もしていない様子で説明してくれました。私がこれを好きだからあなたにも興味を持ってもらいたい、そういった感情を感じ取れました。

今回のこの体験は、本当にたくさんのを私に教え、与えてくれました。親切な行動や親しげに話すことは、なにもいつも一緒の人にだけにするものではなく、初対面であってもそれはかわらないのだということ。また、自分の好きなものや、思っていること、相手の発言に対しての疑問などを、口にすることは何もおかしなことではないし、笑うことでも無いのだということ。

この体験はもう終わってしまって、心残りを解消することはできませんが、次に長岡京に来る生徒の方や、もし自分が行くのであれば、今回できなかったことを進んでやっていきたいと思います。大変だったことも多かったですが、それ以上に手に入れたものが多い体験となりました。本当に、行くことができよかったです。

西乙訓高校2年 藤本 有紗

私はアーリントン短期留学を終え、昨夜ボストン空港から長岡京市に帰ってきました。私は今、放心状態です。アメリカでの10日間はあまりにも濃いものでした。毎日が新しいものや、たくさんの人たちとの新しい出会い、初めての感覚や、初めての経験などたくさんの刺激に溢れていて、頭の中はもう常にプチパニックを起こしていました。私はそんな10日間の1日いちにちを、自分なりに何か掴もうと、一生懸命過ごしました。そんな中で私が感動したことや心に残ったことを伝えたいと思います。

私が最初に感動したことは、現地の人たちのフレンドリーさです。私のホストファミリーをはじめ、現地の人たちは本当に温かく私達を迎えてくれました。いい意味で気を使わないで明るく楽しく接してくれるので、とても心地のいい時間を過ごすことができました。地元の同年代の子たちも、まるで前から友達だったかのように接してくれ、すぐに仲良くなれました。とっても嬉しかったです。

そしてアーリントン高校の生徒たちと交流したときに強く感じたことがあります。それは自信です。一人ひとりが自分自身をしっかりと持っている事を強く感じました。私はこの事をきっかけに、自分自身を見つめなおし、自分のことをもっと深く知りたいと思いました。

ホストファミリーと過ごす時間は、時間が増すごとに楽しくなっていました。中でも一番の思い出は、ホストシスターたちとリビングルームで映画を見ながら、床に敷いたマットの上で、ディナーと一緒にインド料理を食べたことです。初めてのインド料理はとっても美味しかったし、ほんとの家族のように一緒に過ごしているみたいで、とっても嬉しかったです。心が温かくなりました。

オトソン中学校での美女と野獣の演劇鑑賞は、本当に感動しました。中学生たちが着ていた衣装や、小道具などは素敵なものばかりでした。そして主役から脇役まで、全員なりきって楽しそうに演じていたし、声も大きくて、何より歌がとても上手でした。恥ずかしそうにいる人が一人もないことも驚きでした。

このアーリントン短期留学で私は強い影響を受け、私の世界は大きく変わり始めています。自分の生まれ育った国の文化とは異なる国の文化を体験することは、慣れないこともあるけれど、とても楽しく、おもしろいことだと思いました。私は、これからたくさんの国に行き、たくさんの文化を知りたいと思っています。

西乙訓高校2年 渡邊 恵佑

僕はアーリントンプログラムを通して、たくさんのことを学び、気づくことができました。現地で思ったことや、学習会で学んだことを報告したいと思います。

学習会は高校生だけでなく、中学生もいる環境での学習会ということで、僕たち高校生は高校生らしい行動を心がけていました。しかし、始まった当初は高校生も中学生もグループだけの壁を作ったりして、あまり高校生らしいことができていませんでした。それを見た先生方は僕たち高校生

を叱り、改めてこのプログラム意味などを再確認することができました。

現地で特に印象に残っている思い出は二つあります。一つ目はアーリントンメンバーで過ごした時間です。飛行機、バス、レッドソックス観戦、ホエールウォッチングなど、たくさんの時間を共に過ごしました。そのたくさんの時間を重ねるにつれ、距離が縮まりました。26名の高校生、中学生がいたので個性豊かな人がいっぱいいて笑いが絶えませんでした。バスでは女子たちが歌を歌っていたりしました。男子はみんなで何かよくわからない遊びをしていました。何かよくわかりませんが、とても面白かったのは覚えています。

二つ目はホストファミリーとの時間です。僕のホストファミリーは三人家族で父、母、息子の構成でした。彼らはとても親切で、いつも僕のことを気にかけてくれました。朝になれば、「よく眠れた？」と毎日聞いてくれました。父親の Philip はわかりにくい英文があれば、携帯のアプリで日本語に訳してくれました。母親の Annie は体調が悪く入院している日もありましたが、彼女は入院中でも僕の心配をしていました。僕も彼女が心配でしょうがなかったです。退院してきた日はホストファミリーと僕で温かく迎えました。息子の Ethan は14歳でしたが、僕よりも身長が10cmは高く、とてもびっくりしました。彼とは一緒にゲームをしたりして遊びました。

ホストファミリーの家には地下があり、庭があり、トイレが二つあり、パソコンが五台くらい置いてありました。それに、ぼくが寝ていた部屋はとても大きく、ベッドに横綱が寝られるくらい大きなベッドでした。ホストファミリーとの思い出はたくさんあり、とても大切な思い出になりました。

最後に僕が現地で感じたことは、英語というのは僕が思っていたよりもとても大きかったです。なぜなら、「～しますか？」という文なら僕たちが習う英語では、「Do you～」となりますが、現地では「You play～？」文の語尾を上げることで、疑問文にしたりして、やっぱり僕たちが習う基本の英語ではなく、日常会話など現地でしか感じるこのできない、知るこのできない表現の仕方がたくさんありました。

このプログラムはたくさんの人に支えられて、続けられていることが現地に行って、余計に痛感しました。まず、長岡京市の市長さんや市役所のみなさん、高校や中学校の先生方、このプログラムを支持してくださっている方々、AETの方々、ホストファミリーを受けてくださった現地の方々、現地で案内や説明、様々なことに協力や補助をしてくれた現地のみなさん、そして家族。たくさんの方に感謝でいっぱいです。

僕はたくさんの方々のおかげでアーリントンに行けたことを忘れず、これからの学校生活、将来に活かして、アーリントンに行きたくても行けなかった人や友達、家族にたくさんのことを伝えて、より多くの人にアーリントンのことを知ってもらえるようにしたいです。

ありがとうございました。



## 伊丹空港にて！26名、いざ出発！



### 多くの方々に見送られ、伊丹空港へ！

・あいにくの雨でしたが、中小路市長をはじめ校長先生方、保護者の皆様など多くの関係者の方々に見送られ、全員そろって元気に長岡京市を出発しました。

・バスの中では、西山先生から様々な注意事項を聞き、「いよいよ日本を旅立つ時が来たんだ」と緊張感と期待が高まり、みんなの顔や気持ちが引き締まってきました。

・伊丹空港にて、出発写真をパチリ！その後、昼食をいただきました。

・中高生を交えた活動班を発表しました。初点呼の様子は、まだまだ全体的にぎこちない感じでしたが、高校生がリーダー



ーとなり、それぞれが力を発揮しながら、これからのミッションを乗り切ってくれることしよう！

### 18:10「JAL008」便で成田空港出発。

・成田空港では、飛行機をバックに写真を撮ったり、お腹がすいたのかお菓子を買ったり、空港散策していた生徒もいました。少し時間があると、つついスマホに見入ってしまう生徒が多いのがちょっと気になるところです。

・いよいよ太平洋を渡り、アメリカ大陸を横断！！12時間半もの長いフライトが始まりました。



## 飛行機の中では・・・

- ・夕食は、機内食。鮭を添えたパエリアかグリルチキン。デザートには、なんとJAL 限定ハーゲンダッツのチーズタルト味のアイスが！これは大好評。帰りも食べられたらいいなとつぶやいていた人も・・・。
- ・おしゃべりしたり、本を読んだり、映画を見たり、ゲームをしたり、英語の勉強をしたり・・・思い思いに過ごしました。



ターのスーさんが、お出迎え。スーさんが、とっても明るくユニークで、生徒たちにも笑顔で接して下さったため、長時間の疲れが一気に吹き飛びました。みんなもテンションが上がり、バスの中では笑顔や歌声があふれていました。



## 現地 18:40 ポストン到着！

- ・入国審査では、昨年まではなかった指紋&顔認証システム導入で、厳戒体制。重々しい雰囲気の中でしたが、私たちは、スムーズに通ることができました。グリーンTシャツ効果かもしれません！
- ・手荷物受取場では、男子生徒の出番です。ピンクリボンが付いた重いスーツケースを見つけるとは、せっせと運びおろして大活躍でした。
- ・ポストンも残念ながら雨模様。コーディネー

## 待ちに待ったホストファミリーと対面！

- ・ポストン空港からは、スクールバスに乗ってアーリントンへ。コーディネーターでありホストファミリーでもあるジョアンのお家に向かいました。そこにはあふれんばかりのホストファミリーが、生徒の顔写真をもって待っていてくれました。
- ・それぞれのホストファミリーに連れられて、各家に散って行ったのは、午後8時すぎとなりました。ドキドキしながら自己紹介したり、軽く食事したり、お土産を渡したりして、心に残る出会い&一夜となっていることでしょう。





## ホストファミリーの送迎で元気に集合！

- ・ホストファミリーと一夜を過ごし、朝8時半ホストの車で全員元気に集まってきました。
- ・口々に「ホストファミリー、めっちゃ優しいねん！」「ゆっくり話してくれたしわかった！」「ベットがふっかふか。」「朝ご飯はシリアルやった。」朝からみんなのおしゃべりが止まりませんすっかりホストファミリーにとけ込んでるようでした。
- ・スクールバスで約30分、ボストン市内に向かい、今日は一日ボストン観光です。雨もすっかり上がり、快適なお天気となりました。

## レッドソックスのホーム球場見学へ！

- ・日本人のガイドさんが、つきっきりで説明をしてくれました。生徒の中には、今しかないと、ガイドさんの話もそこそこに、撮影に夢中でした。
- ・名物である11mものそびえ立つグリーンモンスターの特別席やプレス席に座ったり、ホームランが一番遠くまで飛んできた座席や手動のスコアボードを見たりして歴史ある球場ならではの秘話を楽しみました。



## マサチューセッツ州議事堂へ！

・金色の玉ねぎのような形をしたドームがシンボル。ここでは英語のガイドさんがゆっくりと話してくださったので、所々西山先生が通訳に。必死で英語を理解しようとみんなが真剣な顔だちで聞いている姿が印象的でした。

・議場で「any questions?」と聞かれ、女子（ありさ、さくらこ）が手を挙げ、ガイドさんに英語で尋ねていました。これまでの力を活かし、チャレンジする姿勢がたのしいです。



ープで歩きながら、英語で書かれたミッションにチャレンジしゴールをめざしました。

・お墓や銅像を探したり、レッドソックスのTシャツを着ている人に声をかけ写真を撮ったりなど、ハードなミッションを、高校生中心に取り組みました。



・電子辞書を持ち出し調べたり、なかなか全員がまとまらなかつたりと様々でしたが、素晴らしい天気と青空に恵まれ、歴史あふれる美しいボストンの街並みを思いっきり堪能しました。

・到着後は、お待ちかねのショッピング。クインシーマーケットで、ボストン帽子やTシャツ、雑貨を見て楽しみました。

## グループで、フリーダムトレイルに挑戦

・フリーダムトレイルは、アメリカ独立に向け、ひた走った先人ゆかりの家や場所などの史跡を結んでいる赤いライン。その線に沿って、グル

## 帰りのバスは・・・

・疲れと心地よい揺れで、生徒たちも引率者も、みんなぐっすりおやすみモードでした。





ダリン小学校→ハーバード大学→演劇鑑賞（中学校にて）

H29(2017)/4/28

No 3



ダリン小学校にて！

## ダリン小学校到着。全校集会！

- ・ダリン小学校は、年長組～5年生まであり、welcome ceremony のため、全校生徒がジムに集まりました。
- ・とてもハンサムな校長先生の司会で始まり、小学生から歓迎の歌や合奏のプレゼント。その中に「さくら」の歌もあり、感激でした。
- ・校長先生と音楽の先生のギターに合わせ、「This land is your land」を全児童が大合唱。これにはびっくりしましたが、生徒たちも一緒に楽しく歌い、盛り上げていました。
- ・いよいよ私たちのパフォーマンスの時。

はじめに、ちづる（リーダー）の堂々とした素晴らしいスピーチの後、「ふるさと」「Believe」、なるみのピアノも



成功！そして「This land～」は全校合唱とかぶったものの、ギターとは雰囲気異なる、ゆいなのピアノと彼らの歌声に聞き入ってくれました。

- ・ダンスでは、チャンバラ場面で歓声があがるなど気合の入った踊りに、小学校の先生からも「wonderful!」と声をかけていただきました。

## 校内見学&文化交流体験。

・体育館の中もそうでしたが、廊下のあちらこちらに、日本の文化（学校のこと、漢字、富士山、さくらなど）について学習した足跡が数多く掲示されていました。カラフルな掲示物、あたたかい歓迎ぶりに生徒たちも大感激でした。

・2年生の4つのクラスで、文化交流体験を行いました。予想外の低学年で、日本で準備していた進め方では難しかったため一人ひとりが工夫して優しくティーチング。さすが中高生です。

・「けん玉するときは膝をまげて！」「書いてみたい言葉は何？」

と子供たちに楽しんでもらいたいという気持ちが、言葉とジェスチャーに表れ、すてきなコミュニケーションが生まれていました。



## ランチ&グラウンドで遊ぶ

・校長先生の計らいで、おいしいサンドウィッチを、校外でいただきました。おかわりに行く生徒も！他にもスクールTシャツもいただきました。

・「アメリカの子ども、かわいい！」積極的な女子が、グラウンドで遊んでいる

子どもたちの輪の中へ飛び込んでいったことをきっかけに、みんな一緒にサッカー、おにごっこ、遊具などで汗を流し、楽しいひと時をすごしました。



## ハーバード大学見学&生協へ！

・大学内でちょうど学生による芸術作品や創作作品があちこちに展示されており、その一つと

して電気を起こすシーソーで、楽しみました。

・天体観測できるサイエンスセンター、南北戦争で北軍に加わり戦死した学生の名が記されているというステンドグラスが美しい記念



ホール、タイタニック号の沈没でなくなった学生の親が寄付して建てた美しい図書館などを見学。

・「英語での説明が少しわかってきたー！」耳が慣れてきたのか、スーやコーナーもとてもゆっくり話してくれるので、通訳なしでもなんとなくわかってきた人もいます。確実に英語力アップしています！！

・大学のCOOPでは、ロゴ入りのノートや水筒、キーホルダーなど家族や部活のみんなにお土産を購入しました。

## 中学生による「美女と野獣」公演！

・開幕と同時に、衝撃が走りました！本当に中学生？？長岡の中学校でも文化祭でレベルの高い演劇がなされていると思っていますが、衣装、小道具、演技力、個々の歌唱力など、プロ相当の素晴らしいミュージカルでした。1月より約4か月レッスンを重ねてきたそうです！

・休憩中に「すごく見ていたのに、まぶたが下りる…」とつぶやいた生徒がいたくらい、暗闇の中みんな疲れのピーク&英語での鑑賞は、実は睡魔とたたかいながらの鑑賞なのでした。

・この期間のハードなスケジュールを全力で乗り切った子どもたち。土日はホストファミリーで体を休めつつ、一人ひとり違った素敵な体験をすることでしょう。お便りはお休みです。







## ジャパンフェスティバルにて



### 日曜日 10時アーントン高校に集合

- 本日も素晴らしい天気恵まれ、全員元気に集まってきました。
- 土曜日に会えなかったせいか、バスの中ではおしゃべりが絶えません。海に行ったり、遊園地に行ったり、レストランに行ったり、他のホストファミリー宅へお泊りしたり、家の中で遊んだり・・・リアルアメリカ生活を楽しんだようです。



### アメリカ最古の公園ボストンコモンへ

- 町のど真ん中に広がる緑のオアシス、コモン公園を散策。すると「リス」がお出迎え。あま

りのかわいらしさに、記念撮影。

- 美しい湖に浮かぶ、乗り物のスワンで遊覧し、ボストンの自然と歴史ある建造物が融合する素晴らしい景色を満喫。2台に分かれて乗りました。この乗り物、優雅に見える一方で、実は一番後ろにいるアルバイト生が足で漕いでいるんです！



### 人であふれるジャパンフェスティバル

- 公園の真ん中では、ボストンに住む日本人たちを中心に、食べ物や着物などの衣類、習字や折り紙体験などのブースが並び、大勢の人が集

っていました。

・セーラームーン、ピカチュウ、スーパーマリオ、ナルトなど日本のアニメキャラクターに扮した人があちらこちらに。



## ステージでのパフォーマンス！大成功！

・12時から始まったステージ。1番目は現地に住む日本人子供たちのヒップホップダンス。笑顔で踊るかわ



いい姿を見て、ついつい一緒に踊る男子たち。気分が高まってきました。



・音楽を聴きつけた観客がどんどん集まり、大きな人だかりに。いよいよ

よです。こうへいの曲紹介、歌ビリーブ、さらこのダンスの解説、鳴子ダンスの順に約10分間のパフォーマンスを行いました。

・青空とボストンの景色をバックに、ハッピを翻しながら全力で踊る姿は、とてもかっこよく、大きな歓声と拍手に包まれました。

・途中のシュリケン渡しも大盛り上がり。自分たちで考え、場にに合わせてパフォーマンスを変更し対応するなど、チームワークも生まれてきました。

・見に来ていたホストファミリーも一堂に、「great!」「wonderful!」と絶賛。あるホストファミリーの小さな子どもが、鳴子おどりを気に入ったのか、まねてみせてくれるほどでした。

・終わってしばらくすると、なんと大粒の大雨が！！みんなの運の良さを感じました。





## オトソン中学校でシャドーイングに挑戦

### ①学校で朝ごはん

カフェテリアで朝食が用意されており、注文すれば食べることができます。スナック菓子、マフィン、ジュースなどいただきました。

### ②ウェルカムセレモニー

校長先生をはじめとした挨拶があり、りょうも笑顔で、日本との違いをスピーチしました。その後、オトソン中学校の生徒から「モアナと伝説の海」等の歌をプレゼント。その後、3度目のパフォーマンスでお礼。回数を重ねるごとにうまくなり、一体感が増してきました。途中、CDが鳴らないという大ハプニングもあり、ど

うなるかと思いましたが、誰一人動じることなく、ピンチをパワーに変えて、すばらしい歌&ダンスを披露しました。

一人ひとりにオトソン中学校のバックとTシャツのプレゼントをいただき、うれしくてさっそく持ち歩いていた生徒もいました。

### ③シャドーイング

仲間と離れ、オトソン中学生とペアを組んで、一日中授業体験しました。4時間もの授業を受けました。英語、地理、サイエンス、数学、アート、音楽などを all English で聞くことは、生徒たちにとってかなり過酷な挑戦でした。

昼食はスクールランチ。アメリカの子どもたちの中にとけ込んで、食べました。

「全然わからへんかったわ。」「アメリカの生徒はすごく意見や質問を言うのでびっくり。」「数学は分かった。」など一人ひとり感じ方は違いましたが、全員乗り切りました。

### ACMI スタジオで



・TVショーの撮影を行っているスタジオ見学&体験を行いました。アーリントンの市民ならだれでもここで撮影し、放映することができ、生徒もよくやってくるそうです。

・質問は？と聞かれ、人気番組や番組料金のことなど、たつやとむくが進んで質問しました。

・本格的な機材がそろっており、カメラマン、音声係等の役割を決め、出演者となった(たつや、りょう、ちづる、ふみや、まな、ありさ)を撮影。出来上がりがとても楽しみです。

### 夕食は、ハンバーガータワー

・12個のハンバーグがくし刺しになってで

きました。1つ1つがとても分厚く食べごたえがあり、1個全部が食べ切れなかった人も！

・このような食文化の違いはホストファミリーとの生活からもきっとたくさん学んでいることでしょう。毎日続くピザ、サンドウィッチ、ポテト、バーガー…少し胃もびっくりしています。

### タウンミーティングでも歓迎

・はじめに、とても素敵なロビンズハウスで、教育長さんや教育委員さんとの簡単な懇談を行いました。



リーダー3人が日本との違いやお礼をスピーチしました。

・次に、アーリントンでは、21区から各12名、計252名の市民が出てきて予算と条例を決める議会があり、その様子を見学しました。住民ならだれでも議案をだせる半直接民主制のため、議会は何日もかけて行うようです。

・友好都市長岡京市から来た私たちを、全体の場で紹介・歓迎していただきました。

### フォトアルバム(第5日目)



長岡京市教育委員会発行

2



### 英語でレキシントンの歴史学習!

- ・レキシントンはアメリカ独立戦争発端の町。イギリス軍と植民地兵士軍との戦いの様子を、歴史の先生であるコナー先生がとても分かりやすい英語で、説明をしてくださいました。
- ・みんなリスニング力がアップしているようです! 頷きながら聞いている生徒が増えました。
- ・普段は農夫であったミニットマンの銅像前で集合写真を撮りました。アメリカの歴史を堪能。

### 新鮮な野菜、花、ウィルソンファーム!

- ・到着すると全員にリンゴがプレゼント。「お

腹が減っていると、ついつまみ食いしたくなるため、このりんごを食べてね!」とのこと。つやつやのリンゴをまるごとかじりながら話を聞きました。

- ・種の蒔き方や、苗の作り方、生産物の洗浄方法などについて英語で解説。日本では見られない花や果物、それらを保存するための大きな冷蔵庫の中にも、震えながら入りました。
- ・昼食はあいにくの天気のためバスの中でしたが。午後はゆっくりショッピングを楽しみました。家族や友達、クラブのみんなへのお土産などをゲット。お金の使い方もすっかり慣れてきました。

### フォトアルバム(第6目)





### 高校生たちと交流深めた高校訪問！



・「お久しぶり〜」と日本語で笑顔で表れたのは、長岡京市でAETだったジャスティン先生とレベッカ先生！

コーディネーターとして一日中お世話になり、安心して過ごすことができました。

#### ① パンケーキで朝食

家庭科の時間に、アメリカの生徒たちが焼いてくれたパンケーキをいただき、アメリカの生徒たちとも交流しました。



勇気を出して質問したり、写真を一緒にとってもらったりして、とても楽しそ

う！スマホで撮る写真やSNSを使ってつながる、今どきの交流が広がっていました。



#### ② ウェルカムセレモニー

大ホールに集まってきた高校生たちは総勢150人ほど。これが最後のパフォーマンス。ふるさとの歌声は、ホールに響き渡り、一番自信のなかった「Sweet Caroline」は、観客がノリノリで会場に一体感が生まれ、これまでにない笑顔で歌うことができました



た。りょうすけの気合の入った「かまえ！」で始まる鳴子おどりも、今まで以上に子どもたちの気持ちのこもった最高の舞台となりました。

### ③ 学校ツアー

昨年の夏に、日本に訪問していた高校生がガイド役としてやってきて案内。あちらこちらに「ようこそ」



の看板を見つけました。生徒たちは、「廊下にあるロッカーがうらやましい！」「廊下が広くていいな」「教科ごとの教室になってるんだ。」「こんな広いグラウンドほしいわ。」と日本との違いを感じながら見学しました。

### ④ 初のクライミング体験！

学校の敷地内に、日本では考えられないほど大きなクライミングジムがあります。一人ひとりロープ装着用のグッズを体に取り付け、いざ



体験！あまりの高さにこわがっていた生徒もいる中、「もう一度したい！」と快感を覚えた生徒も。このような授業は、年間6回くらいあるそうです。大自然の中、スケールの大きいアメリカならではの貴重な体験でした。



待ち時間中、サインペンアートが得意なアメリカの高校生が、数人の生徒のうでに絵を書いてくれるという素敵な体験をした生徒もいました。

### ⑤ スクールランチ！

中学校のスクールランチとは少し異なり、ピザ、サンドウィッチ、ポテト、チキン、サラダバー、果物などとても種類豊富なバイキング形式。どれもおいしく、お腹いっぱい。自由に好きな



ものを好きなだけ…アメリカンスタイルに子どもたちもすっかり慣れました。

### ⑤ 英語の授業に参加

日本でいう国語の授業を受けました。アメリカの生徒たちに混ざり、5つのクラスに分かれてみっちり学習。教室によって異なりましたが、2冊の本の読みくらべをしたり、グループディスカッションしたり。どんな場面でも手を挙げて「I think～」と自分の意見を自由に言える雰囲気が好きだと、アメリカの学校のよさを感じている生徒もいました。

### 熱気ある球場でレッドソックス観戦！

・とても楽しみにしていた野球観戦です！ホストからレッドソックスのシールを顔に張ってもらったり、到着後すぐに、ぼうしやトレーナーを購入したりして応援体制はばっちりです。



・緑の芝生と観客の赤色がとても鮮やか！球場は熱気で包まれ気分上々です。



・スポーツ好きの男子はじっくり試合を楽しみ、女子は時々オフィシャルショップで買い物したり球場をぶらぶら散歩したりして、思い思いに試合を楽しみました。

・学習会で練習した「Take Me Out to Ball Park」「Sweet Caroline」を観客みんなで歌うこともでき大盛り上がり。帰宅はなんと11時過ぎでした。





### Whale watching!



#### クジラの姿、あちらこちらに!

・ボストンの港に着きました。船に乗って約一時間程度でクジラのスポットへ到着。船酔い気味の生徒も数名いましたが、クジラが現れると、元気にデッキに上がることができました。



・5、6回訪米している小川先生、西山先生が、これまで見た中で最高だ!とおっしゃるくらい今回は、数えきれないほどのクジラに出会うことができました。



・船の周りにクジラが集まり、あちこちで顔を

出したり、潮を吹いたり、ジャンプしたり。さらにイルカがびよんびよん泳ぎ回る…まるでサーカスのようでした。それぞれ、写真におさめたり、動画をとったり、目に焼き付けていたり。さてお気に入りショットはとれたでしょうか?

・下船後は、ペアやグループで水族館見学とショッピング。何度か来たクインシーマーケットで、最後のボストンの街を歩き楽しみました。

#### シャーロット家でフェアウェルパーティ!

・帰宅後、30分ほどしかない中、女子はすばやく着替え浴衣姿で登場!



・広くてすてきなガーデンのあるシャーロットの家に、約80人近い人たち

が集まりました。ホストファミリーお手製の各家庭料理を持ち寄り、豪華ディナーが完成！

・デザートでは、あまり見たことのない色合いのビッグサイズケーキ、チョコ味濃厚なケーキ、アイスなどで大喜び！

・全員がそろったところで、セレモニーがはじまりました。はじめは、表彰式。①100 フレーズチャンピオン：たつや、

こうへい、ちづる、ふみや

②劇チャンピオン：いっせい、さくらこ

③トリア：ちはる

・次は最後のスピーチです。リーダー3人から一人ひとり考えてきた感謝の言葉を伝えました。

3人とも英語でのスピーチに自信が表れていました。

笑顔とジェスチャーで、さらに笑い交え、代表として

せいいっぱい思いを伝える姿に私たちは胸がぐっと熱くなりました。



ホストファミリーの心にも届いたことでしょう。

・引率者もスピーチ。長年生徒を引率してきた西山先生の目にも大粒の涙が流れました。

・次に、ホストファミリーとのつなぎ役であるジョアンへのサプライズメッセージとプレゼントを、むくとりょうすけから渡しました。みんなの好きなスーにも渡したかったのに残念。

・最後に、バスの中でみんなで考えた「旅立ちの日に」2部合唱、ふみやが指揮をしました。涙ながらに歌う歌声に、私たちやホストファミリーの涙をさそい、感動的でした。

・感謝を明るい感じで伝えたいという、今回のみんなの思いからか、本当の最後は、PPAPダンス！本番ぶっつけでしたが、それはそれはホストファミリーも大笑い、拍手喝采でした。

みんなの気持ちが一になった瞬間でした。

・「帰りたくない〜」「もっと一緒にいたい〜」と言いながらホストファミリーや仲間と写真を撮り合い、名残を惜しんでいました。

・家に帰ってパッキング。とうとう Last day.

## フォトアルバム(第7日目)





## とうとうホストファミリーとのお別れの日

- ・朝9時小雨の降る中、この10日間集合場所として慣れ親しんだアーリントン高校前に、ホストファミリーと最後の集合。
- ・行きはスーツケース一つだったのに、もう一つ、ボストンバックが増えている子も！お土産とたくさんの思い出が詰まっていることでしょう。
- ・それぞれ感謝の思いを精いっぱい英語で伝え、ハグ。また涙があふれる生徒もいました。

- ・泣きそうになるので、楽しい話ばかりしたという生徒もいました。
- ・とても親切にしてもらったこと、うまく伝えられず悔しい思いをしたこと、一緒に笑ったこと、びっくりしたこと…決して楽しいことばかりではなかったと思いますが、この10日間、引率者にしんどいとかつらいという言葉をお口にした人は誰一人いませんでした。
- ・一人ひとり自分らしくホストファミリーと過ごした貴重な時間は、一生の宝物であり、これ

からの自信とパワーにつながることでしょ

・名残を惜しみながら、バスに乗り込み、手を振り、ボストン空港に向かいました。

・13時30分、予定通りボストン空港から成田行きの飛行機に乗りました。飛行機にのる瞬間、「あ～入りたくないな」とつぶやいていました。

・飛行機の中では、英語の日記を書いたり、映画を見たり、中間テストに向けた勉強を始めた

り…しかし食後は、みんなぐっすり眠っていました。  
・関わってくださった多くの方々に感謝申し上げ、最後のおたよりといたします。ありがとうございました。

## フォトアルバム(第9日目)



思い出を胸に26名無事帰国。ありがとうございました。

## Ⅱ 来訪の部

## 1 訪日団員名簿

氏名	
Lucas Plotkin	ルーカス・プロットキン
Eamon Madden	エイマン・マデン
Zoe Vale	ゾーイ・ヴェル
Eleanor Freed	エレノア・フリード
Ryan Oosting	ライアン・オースティン
Riley Vale	ライリー・ヴェル
Annika Lof	アニカ・ロフ
Martin Desjonquieres	マーティン・デジョンケル
Neil Tracey	ニール・トレイシー
Anahad Sharma	アナハド・シャルマ
William Sukijthamapan	ウィリアム・スキジュタマパン
Alex Pena	アレックス・ペナ
Camille Maxwell	カミール・マックスウェル
Rin Barr	リン・バル
Nirvan Patel Masini	ニルヴァン・パテル・マシーニ
Tucker Routenburg	タッカー・ルーテンバーグ
Stacie Greenland	ステイシー・グリーンランド
Meshia Williams	ミーシャ・ウィリアム

## 2 訪日日程

月 日 (曜日)	時刻	行程
7月6日(木)	19:50 21:30	伊丹空港 到着 長岡京市役所到着後、各ホストファミリー宅へ移動
7月7日(金)	8:50 9:45 14:30 17:30	市長表敬訪問 楊谷寺押し花体験、寺内見学 伏見稲荷神社 見学 市役所 着 ホストファミリー宅へ移動
7月8日(土)		ホストファミリーデー
7月9日(日)		ホストファミリーデー
7月10日(月)	8:48 10:05 15:53 17:03	JR長岡京駅 出発 近鉄奈良駅 着 東大寺、興福寺、春日大社、奈良公園 散策 JR奈良駅 出発 JR長岡京 着 ホストファミリー宅へ移動
7月11日(火)	8:30 13:15 17:00 19:00 21:00	長岡第九小学校で授業体験プログラムに参加 学校 出発 鉄道博物館、京都水族館 見学 市役所 着 カラオケナイト カラオケ終了 ホストファミリー宅へ移動
7月12日(水)	9:00 12:00 15:00 17:00	太秦映画村 散策 嵐山、モンキーマウンテン散策 乙訓高校 着 水球体験 乙訓高校解散 ホストファミリー宅へ移動
7月13日(木)	8:30 17:00	西乙訓高校で授業体験・部活体験プログラムに参加 西乙訓高校解散 ホストファミリー宅へ移動
7月14日(金)	8:40 16:00	長岡第二中学校で授業体験、クラブ体験プログラムに参加 第二中学校解散 ホストファミリー宅へ移動
7月15日(土)	18:30 20:30	ホストファミリーデー フェアウェルパーティ ※中央公民館市民ホール フェアウェルパーティ終了
7月16日(日)		ホストファミリーデー
7月17日(月)	11:30 12:15 14:40 18:10 18:10	長岡京市 発 伊丹空港 着 伊丹空港 発 成田空港 発 ボストン 着

### 3 訪日団引率者挨拶

#### Meshia Williams ミーシャ・ウィリアムの挨拶

"Konnichiwa, I'm Sensei Williams from your sister city -  
Arlington, Massachusetts.

こんにちは、私は姉妹都市アーリントンから来たミーシャ先生です。

I'm happy to be here, and I want to thank you, on behalf of our  
group of travelers, for your warm welcome and hospitality.

ここに来られて嬉しいです。そして、訪問団の代表としてあなた方  
の温かな歓迎とおもてなしに感謝いたします。

I'm proud to be a part of this cultural exchange that has been  
taking place for over 30 years.

私は 30 年続く姉妹都市交流事業の一翼を担うことができ、誇りに  
思っています。

In honor of this occasion, we have brought you a humble gift  
from our home town."

敬意を表して、ささやかではありますが、私達から贈り物があり  
ます。

#### 4 訪日団生徒挨拶

Riley vale ライリー・ヴェルの挨拶

"Hello everyone. We are from Arlington, Massachusetts, your sister city in America.

皆さん、こんにちは。私達は姉妹都市であるマサチューセッツ州アーリントンから来ました。

We are all in middle school or high school. We are very excited to be here and hope to have a fun time."

私達は全員中学生、高校生です。日本に来ることができて、ワクワクしており、楽しい時間が過ごせることを願っています。

Annika Lof アニカ・ロフの挨拶

Konnichiwa! My name is Annika Lof, and I'm the middle school lead student.

こんにちは。私の名前はアニカ・ロフで、中学生のリーダーです。

We're all really happy to be here, and we want to thank you for taking us in and giving us this amazing opportunity to learn about Japan.

私達は日本に来られて本当に嬉しいです。お招きいただき、日本について学ぶ素晴らしい機会を与えてくださり、感謝しています。



# アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第1号

★★主なプログラム 平成29年7月7日★★

表敬訪問、楊谷寺、伏見稲荷

(Visiting city hall, Yokokuji temple, Fushimi Inari)



市長を表敬訪問しました。

As a welcoming gift, the mayor gave the students hand fans to help with the summer heat.



回転寿司は初体験！お腹いっぱい食べました。

The students prepared for hiking with so many delicious sushi train dishes. That is raw power!



楊谷寺にて押し花体験！彩りを添えて。

Students make beautiful flower arrangements in Yanagidani Kanon's garden rooms.



伏見稲荷で鳥居のトンネルをぐり抜けて。

Students hope to become industrious from Fushimi Inari's long gate hike, even in summer vacation.



# アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第2号

★★主なプログラム 平成29年7月10日★★  
奈良観光（奈良公園、東大寺）  
Traveling to Nara, Nara Park, Todaiji Temple



奈良駅に到着！記念に一枚パチリ。  
The students took the JR Nara Line to one of the oldest public parks in Japan, dating from 1300.



奈良公園で鹿の群れに歓迎されました。  
In Nara you must feed deer! They check pockets...



世界遺産、東大寺の前で集合写真を撮影！  
The World Heritage Sites here are must-sees for visitors to the Kansai area. Look at the smiles!



日本のファミレスで昼食。お味はいかが？  
This is Saizeriya, a Japanese/Italian restaurant and also a schoolchild favorite. That's melon soda!



大仏の鼻の穴と同じ大きさの穴をぐりました。  
This is a pillar of Todaiji. If you can fit through this you can gain enlightenment. No problem!



お土産はなんと刀のレプリカ！サムライの誕生です。  
Don't think for a second that these are gifts...they are clearly personal katana (replicas).



# アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第3号

★★主なプログラム 平成29年7月11日★★  
長岡第九小学校、京都鉄道博物館、カラオケナイト  
(Nagaoka 9<sup>th</sup> Elementary School, Kyoto Railway Museum, Karaoke night)



言語の壁を越えて、生徒同士打ち解けました。  
The schoolchildren loved the visitors and to speak English. We all really do smile in one language.



七夕を体験！短冊に英語で願いを書きました。  
The notes on this sprig of bamboo are wishes and are a part of the traditional Tanabata Festival.



初めての書道！「幸」の字を書き上げました。  
Nagaoka students helped Arlington students in calligraphy. This kanji, 'shiwase', means 'happy'.



鉄道博物館では、日本の電車の歴史に触れました。  
The trains in Japan are a great point of pride and the museum was a lovely way to see their progress!



夜は日本発祥のカラオケ！熱唱しました！  
It wouldn't be a Japan trip without a karaoke night!  
Everyone rocked out (impressively) for hours!



# アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第4号

★★主なプログラム 平成29年7月12日★★

太秦映画村、嵐山、いわたやまモンキーパーク

(Uzumasa Samurai Movie Park, Arashiyama, Iwatayama Monkey Park)



**昔の日本にタイムスリップ！**

Here the students learned the ways of the samurai. The past came to life from the screen to the stage.



**カメラ目線のサルをセンターに記念撮影！**

Arashiyama has a beautiful view of Kyoto and this park's residents enjoy the company (and snacks).



**忍者屋敷に潜入！からくりがお出迎え。**

This ninja house is full of secret doors, false panels, and other surprises. Watch your step!



**餌をあげてみました。子ザルも喜んでます。**

Students make friends of all shapes and sizes and without comments from the peanut gallery, no less!



# アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第5号

★★主なプログラム 平成29年7月13日～7月14日★★

西乙訓高校、長岡第二中学校

(Nishi Otokuni High school, Nagaoka 2<sup>nd</sup> Junior High School)



狙いを定めて、放つ！弓道を体験！  
This straight shooter draws and fires arrows in the Japanese style known as 'kyudo'. Nice shot!



中学校では、剣道場で稽古に参加しました。  
Kendo: great muscle training, serious vocal training, and done in an intimidating uniform. AHH!



高校の理科の授業。化学反応にびっくり！  
Students escape the summer heat only to fire things up in this science class.



折り紙コンテストに向けて、練習あるのみ！  
Everyone trains with local origami pros for the folding contest the next day. There are no short cuts, only paper cuts.



## アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第6号

★★主なプログラム 平成29年7月15日～7月17日★★  
フェアウェルパーティ、帰国  
(Farewell Party, Returning home)



折り紙コンテスト！皆上手にできていました。  
The origami competition was fierce and their skills deeply honed. No one folded under the stress.



感謝の意を込めて、互いの思いをスピーチ。  
The host siblings gave paired speeches of gratitude and hopes for the future. These two seem to be living the (noodle) dream!



言語の壁を越え、会場は一つになりました。  
The farewell party was also attended by former Arlington students. There are strength in 'senpai'!



ついに、涙の別れの時…。また会いましょう！  
They made need to return across the world but there's no denying that this program makes families of everyone involved. Thanks for the memories!